



* 事前学習ではDVIについての内容を学習したが、講演会の内容が虐待が主であったため、調査の結果に変化がでないのではと予測していたが、ほとんどの質問項目においてDVの理解が深まった事がわかる。
 しかし、問④の『暴力の後、あやまったりやさしくしたら許すべきだと思う』について、1年生が前後の変化がなかった。講師の実話の中で、虐待されていた父親とのやりとりから、このような結果が出たのかもしれない。
 * いくつかの問で、2年生がDVIについての間違った認識をしている生徒の割合が高くなっている。
 しかし、問④の『暴力の後、あやまったりやさしくしたら許すべきだと思う』について、1年生が前後の変化がなかった。講師の実話の中で、虐待されていた父親とのやりとりから、このような結果が出たのかもしれない。
 * 問①の『中学生には関係ないこと』と思っていた生徒の割合が大きく減ったことは、DVが身近な問題であると認識することができたのではないかと。
 * 学年別では、3年生がどの項目においても、DVIについて正しく認識できている生徒の割合が高い。昨年度の講演会や日々の学びからの効果ができていると思われる。
 * 問③の『DVIは相手を怒らせないようにすれば起こらない』と思っている生徒が、事前調査において、1、2年生で4割近く、3年生でも3割近くいた。今の子どもたちの人間関係のあらわれであろうか。
 * 講話の時間が少し長かったせいか、後半集中力が切れている様子であったが、調査結果全般から、生徒それぞれに伝わるものがあり、貴重な時間になったように思う。